

地域コミュニティ組織部門 **会長賞**

大崎町衛生自治会

大崎町

団体の紹介・活動の目的

大崎町衛生自治会は、約5,000世帯、町内156の衛生自治会からなる住民組織であり、行政・企業・住民協働型の焼却に頼らない27品目分別のリサイクル事業の推進（大崎システム）の中心的な役割を担っており、リサイクル以外にも様々な活動を通して、地域のコミュニティ活動の推進に取り組んでいます。

衛生思想の普及並びに環境衛生の向上改善に努め、全町民が健康で快適な、さらに衛生的な環境の中で生活できるようにすることを目的として設立した団体です。分別の取り組みが始まった平成10年から組織の見直しを行いながら、行政のごみ処理の取り組みに積極的に協力し、町のごみ処理の問題を住民自らが自分たちの課題として認識し、活動しています。

今後は、高齢化に伴うごみ出し困難者への相談・支援の強化等に取り組む予定です。

連携・協力している団体など

町内の156の衛生自治会、大崎町、大崎町教育委員会 など

活動の内容

月1回の資源ごみの際のステーションでの立会い、町内一斉ボランティア清掃作業（年3回）、くにの松原クリーン大作戦、環境学習会（年1回）などの環境保全活動をはじめ、不法投棄対策を目的とした環境実態調査の実施、大崎町の生ごみと草木で作られた完熟たい肥を用いて栽培された菜の花から菜種油を製造する菜の花エコプロジェクト、二酸化炭素排出削減を目的として家の壁面等つる性植物を栽培（緑のカーテン）するための、住民への苗（ゴーヤ）の無料配布など、様々な取り組みを通じ、住民全体のコミュニケーションを図りながら活動をしています。



資源ごみステーション立会い

ごみステーションを管理する各衛生自治会の方が、月1回ある資源ごみ回収の際、立会いをされている風景です。地域コミュニティの情報交換の場にもなっています。



町内一斉ボランティア清掃作業

年3回、各衛生自治会単位で早朝に、道路や各公民館などの清掃を行うものです。コロナの感染状況を鑑みながら、町内一斉に行うボランティア活動です。



菜の花エコプロジェクト

大崎町の生ごみ・草木で作られた完熟たい肥を用いて栽培された菜の花から、菜種油を製造・販売しています。使用後の油は、回収され石炭や軽油の代替燃料等に生まれ変わります。



緑のカーテン（ゴーヤ苗無料配布）

ゴーヤのつるを家の壁面等に栽培することで、日差しを抑え、部屋の中が涼しくなり、夏場は冷房の温度の下げすぎを抑制でき、CO₂（二酸化炭素）の排出量を削減することが期待できます。